

## 令和3年度 星翔高等学校 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

これまで培ってきた伝統や教育活動を踏まえ、工業科、普通科、国際科を有する総合高校の強みを生かし、中学校までで力を十分発揮できずにいた生徒にも、興味・関心、適性に応じて、多様な学びの入り口を提供し、基礎学力、規範意識を基底とした以下の学力・能力・技能等を個に応じた指導で身につけさせる。

	工業科	普通科		国際科
	機械、電子機械 電気、コミュニケーションシステム	アドバンス	キャリア	スポーツ
育成したい学力・能力・ 技能等	・「ものづくり」の基礎的な技術・技能・知識 ・工業人としての高い倫理観と責任感	・自学自習力 ・難関大学に合格するための高い学力	・進路ニーズに応じた学力 ・探究学習等を通じて育成される主体的に学ぶ力、対話力	・国際理解・スポーツ技術・技能 ・部活動等を通じて育成される人間力
	基礎学力・規範意識（基本的生活習慣）			
進路	(理工学系) 大学 就職、専門学校	四年制大学等	大学、専門学校 就職	(体育系) 大学、専門学校 就職

## 2 中期的目標

## I. 確かな学力の育成と授業改善、教育課程（学科）の改編

- (1) ICTを効果的に取り入れながら、授業の質の向上を図り、基礎的・基本的な学力が定着できるよう、授業改善に取り組む。
  - ア 生徒の実態を把握し、「わかる授業」「魅力ある授業」を推進する。
  - イ 教員の授業力向上のため、教員相互の授業見学や研究授業の活性化と、外部との連携による研修の充実を図る。
  - ウ 基礎学力等を把握することを目的とした診断テスト実施のための事前指導、その結果を踏まえた補習等のしくみを構築し、基礎学力の底上げを図る。
- (2) 工業科の「ものづくり教育」を通じて、意欲をもって学習に取り組む生徒を育成する。
  - ア 資格取得指導等を通じて、生徒に達成感、成就感を醸成し、進路実現への意欲を高める。
    - ・ 目標達成のため、令和2年度に開校した「星翔高校ドローンスクール」を定着、発展させる。

## II. 自立・自己実現の支援

- (1) 生徒の規範意識を醸成し、規律ある学校生活を送らせるとともに、個々の生徒への支援体制を充実させる。
  - ア 生徒にマナーの向上とルールを厳守させ、問題行動の防止や遅刻件数・転退学率の減少に努める。
  - イ 教育相談体制を充実させるとともに、人権教育・支援教育を推進する組織の活性化を図る。
- (2) 生徒会活動、行事等を通じて生徒の自己有用感を醸成するとともに、集団や学校への帰属意識を高める。
  - ア 生徒会活動、行事等の活性化を図り、生徒自らが課題意識をもって学校生活を送れるよう支援する。
- (3) キャリア教育・職業体験教育の充実に努める。
  - ア 「インターンシップ」等の体験的学習を重要な教育活動として位置づけ取り組む。
  - イ 普通科キャリアコースのキャリア選択授業における専門学校・大学等との連携授業を継続的に発展させる。
- (4) 自己実現に向けた支援に取り組む。
  - ア 進路実現に向けた分掌・学年・教科の連携を深め、生徒の自己実現に向けた指導の充実を図る。
  - イ 普通科アドバンスコースの指導充実を図り、国公立大学も含めた難関大学への進学実績をつくる。

## III. 信頼される魅力ある学校づくり

- (1) 渉外（生徒募集）活動の改善を進め、入学者数の増加を図る。
  - ア 1学年300名以上の生徒数確保、900名以上の規模を維持し、財務状況の安定化を図る。
- (2) 生徒のよりよい学校生活を支えるため、施設設備等の改善を進める。
  - ア 部活動を活性化し、生徒の加入率の向上に努めるとともに、施設設備の充実、安全対策の改善に取り組む。
  - イ 推薦クラブ、クラブ種目等の見直しを含めた国際科スポーツコースの充実、改善を進める。
  - ウ 歴史を重ねた校舎の風合い、空気感を生かし、施設・設備の改修を進める。
- (3) 学科、コースの在り方を見直す。
  - ア 新学科・コースの設置を視野に入れ、学科・コースの編成について、見直しを図る。

## IV. 校務の効率化と職場環境の改善

- (1) 校務の効率化を推進する。
  - ア 校内業務の精選と組織分掌等のスリム化（校内組織の再編整備）をめざし、協議、検討を進める。
  - イ 情報の共有化、迅速化を図るため、校務のICT化を進める。
- (2) 職場環境の改善を進める。
  - ア 「働きやすい職場環境づくり」を推進するため、ストレスチェックの結果等も踏まえ、労働安全衛生委員会等で議論を行い、改善を図る。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [令和3年12月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p><b>【生徒】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育内容及び教育活動全般における教員の指導を、概ね肯定的に評価しており、多くの生徒が学校へ行くのが楽しいと感じている。</li> <li>・多くの設問項目において、肯定的な回答が、年々微増で推移し、満足度が向上する傾向にある。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に伴う行事の中止や、今年度の耐震補強工事関連による影響が、結果に現れるのではないかと危惧していたが、大きな影響はなかった。</li> </ul> <p><b>【保護者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「子どもは学校が楽しいと言っている」、「生徒指導の方針に共感できる」、「将来の進路や就職などについても適切な指導を行っている」、「子どもに生命を大切にす心や社会のルールを守る態度を育てる」などの項目で肯定的な回答割合が高い。また、「子どもをこの学校に入学させてよかった」の肯定的回答は84%と高率で、学校に対する満足度が高いことを象徴している。</li> <li>・「授業参観や学校行事に参加したことがある」については、肯定的回答の割合が、他の項目よりも著しく低い。</li> </ul> <p><b>【教職員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導面では昨年と同じ傾向だが、今年度で追加した設問である「オンラインでの学習支援」の取り組みの肯定的回答が低い。</li> <li>・生徒指導面では概ね肯定的な評価をしているが、昨年に比べ少しポイントの低下がみられる。</li> <li>・特別教育活動ではコロナ禍において、学校行事やクラブ活動の自粛、公式戦や外部活動が中止になったことが肯定的回答の低下につながっている。進路指導については、他の評価項目に比べ、肯定的回答の割合が高い。</li> <li>・学校運営等では昨年と概ね同じ傾向にあり、肯定的回答が他の評価項目に比べ低い傾向があり、改善が急務である。</li> </ul> <p><b>【分析】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒、保護者ともに、学校の教育内容全般における教職員の活動、指導を、肯定的に評価している。</li> <li>・生徒は楽しく学校に登校し、あいさつも日常的にできており、学校生活に対する満足度も高い。保護者も学校の教育活動に対して協力的で、評価も高い。</li> <li>・保護者に対する設問、「授業参観や学校行事に参加したことがある」については、肯定的回答の割合が、他の項目よりも著しく低くなったが、行事等が新型コロナウイルス感染症対策により、中止になった影響が大きいと考えられる。</li> <li>・生徒・保護者に共通した設問項目に対する肯定的回答の割合は概ね相関関係が見られ、保護者と子どもの関係性が良好であることを窺わせる。</li> <li>・教職員の自己評価で、特に肯定的回答割合が低かった「オンラインでの学習支援」について、環境整備、仕組みづくりが喫緊の課題である。</li> </ul>	<p><b>【めざす学校像・中期的目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・めざす学校像については適切である。</li> <li>・工業科のコミュニケーションシステムの呼称が長すぎるので、変更を検討できないか。</li> <li>・教員の授業力向上のために教員相互の授業見学及び研究授業、そして教員研修がせめて年1回は必要である。</li> <li>・生徒会活動の活性化、行事の見直しが必要である。</li> <li>・普通科アドバンスコースの進学実績の充実を図る必要がある。</li> </ul> <p><b>【確かな学力の育成と授業改善】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題行動がないのに、学習成績がふるわず進級できなかった生徒がいるのではないか。低学力生徒のケアが必要である。基礎学力底上げのため、各学期終了ごとに補講、補習授業を実施して転退学者を減らす手立てを講じて欲しい。</li> <li>・学力の高い生徒を集めるためにも、入学試験において、アドバンスコースだけでなく、すべての学科で5教科入試を実施すべきではないか。</li> <li>・スポーツコースでは、同じクラブ員どうしで教えあっている。団結力がある。勉強を団体戦でやり、成果をあげている。</li> </ul> <p><b>【自立・自己実現の支援】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生が減少傾向にあることが心配である。転退学率のさらなる改善を望む。</li> <li>・遅刻や早退、懲戒件数をより一層減らすべきである。基本的な生活習慣が確立すれば、学習の結果もついてくるのではないか。</li> <li>・生徒会活動を活性化させるための指導、取り組みが不十分であるように思う。</li> <li>・キャリア選択授業における専門学校を増やすことで、選択の幅をさらに広げて欲しい。</li> </ul> <p><b>【信頼される魅力ある学校づくり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際科スポーツコースを普通科スポーツコースに改編してクラス数を増やすことを検討して欲しい。</li> <li>・ダンス部、吹奏楽部等の新しいクラブの創設を前向きに検討して欲しい。</li> </ul> <p><b>【校務の効率化と職場環境の改善】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分掌、委員会等の再編整備の検討が、未検討になっているが、今後、是非、取り組んで欲しい。</li> <li>・5分掌は3分掌ぐらいに再編する必要があるのではないか。</li> </ul>

3 令和3年度の取り組み内容及び自己評価

	重点目標	具体的な取り組み	評価指標	自己評価
I 確かな学力の育成と授業改善	(1) 確かな学力の育成と授業改善 ア 「わかる授業」「魅力ある授業」の推進 イ 教員相互の授業見学や研究授業の活性化、外部との連携による研修の充実 ウ 基礎学力の底上げ  (2) ものづくり教育の推進 ア 資格取得への支援	(1) ア・ICTを効果的に取り入れながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図り、「わかる授業」「魅力ある授業」を推進する。 ・グーグルクラスルームの活用を進める。 ・1年普通科キャリアコースにおける探究授業(クエストコーポレートアクセス)を継続して実施する。 イ・校長による授業を担当する教員に対する授業見学を継続実施し、公開授業の場とする。 ・ウェブでの授業研究サービスを教員の研修、自己啓発に活用する。 ・保護者の授業参観を実施する。 ウ・低学力生徒に対する指導について、議論を積み上げる。 ・SHRを活用した朝学習を実施する。 (2) ア・第二種電気工事士等の国家資格を中心とした様々な資格取得指導を組織的に進め、生徒に達成感、成就感を醸成する。 ・星翔高校ドローンスクールの取り組みを定着、充実させる。また、取り組みを推進するため、令和3年度学校経営推進費補助事業に応募する。	(1) ア・学校教育自己診断「授業はわかりやすく楽しい」の肯定的回答65%以上(R2 63%)。 ・各教科における活用報告作成。 ・クエストカップ全国大会出場(R1、R2連続出場)。 イ・非常勤講師を含めた全教員に対して実施。 ・各教員1回以上の利用。 ・保護者70組以上(R2未実施、R1 63組)の参加。 ウ・補習等のしくみの素案作成。 ・数・国・英について実施し、取り組みの定着。 (2) ア・第二種電気工事士試験(全員受験)合格率60%以上(R2 50%)。星翔マイスター認定者、ゴールド、シルバー各10名(R2 G、S各7名)。 ・令和3年度学校経営推進費補助事業の支援校となること。無人航空機操縦技能証明、安全運航管理者証明、無線従事者資格の取得者数50名以上。	(1) ア・肯定的回答62%(△) ・活用事例発表会を実施したが、教員の自己評価ではオンラインの学習支援に関する肯定的回答が26.4%にとどまっている(△) ・全国大会3年連続出場(○) イ・専任・常勤講師に対して実施(△) ・夏期教員研修として活用し、全教員が利用(○) ・コロナ禍のため未実施(-) ウ・未検討(-) ・未実施。R4年度から実施予定(△) (2) ア・第二種電気工事士試験合格率39.6%(△)。星翔マイスター認定者プラチ12、ゴールド4、シルバー14(○)。全工協会ジュニアマイスター顕彰特別表彰2、ゴールド4、シルバー6、ブロンズ5(○) ・支援校二次選考で選出されず(△)。無人航空機操縦技能証明61名、4級・3級アマチュア無線技士94名(○)
	II 自立・自己実現の支援	(1) 規範意識の醸成 ア マナーの向上とルール厳守、問題行動の防止や遅刻件数・転退学率の減少への取り組み イ スマートフォン等の使用に係る指導 ウ 教育相談体制の充実  (2) 生徒会活動、行事等を通じた生徒の自己有用感、帰属意識の醸成 ア 生徒会活動の活性化 イ 行事等の改善、充実  (3) キャリア教育・職業体験教育の充実 ア インターンシップの充実 イ キャリア選択授業の充実  (4) 生徒の自己実現の支援 ア 進路実現に向けた指導の充実 イ 進路希望の実現	(1) ア・集会時や日々の学校生活における啓発に加え、無遅刻週間、立ち番指導等、生徒の意識を喚起する取り組みを全校あげて組織的に推進し、問題行動防止に努める。 ・きめ細かな生徒指導、学習指導により転退学率の減少を図る。 イ・校内における節度ある使用(マナー遵守)について理解させる。また、授業中の使用に対する生徒指導部による指導を継続実施する。 ウ・特別支援教育コーディネーターを中心に生徒相談定例連絡会等を通じて、関係教員の連携を進め、支援を必要とする生徒に対する指導の充実を図る。 (2) ア・清掃活動等、社会貢献につながる活動に取り組む イ・内容、実施時期も含めて、行事全般の見直しを検討する。 (3) ア・来年度からの実施時期、対象者等の見直しを継続して検討する。 イ・2、3年キャリアコースにおける選択授業を継続的に取り組めるよう専門学校との連携を深めるとともに、大学との連携も実施する。 (4) ア・進路に関する保護者への啓発に係る学校行事(説明会)等を実施し、生徒の自己実現の取り組みをより一層支援する。 イ・就職希望者の進路実現に向け、夏期休暇中の就職講座を継続実施するなど、きめ細かな進路指導を行う。 ・アドバンスコースをはじめ大学進学希望者の進路実現に向け、校内での情報共有をより一層図るとともに、外部の諸機関、スタッフとの連携を深め、きめ細かな進路指導を行う。	(1) ア・遅刻総数5,000以下に削減。(R2 5867)。 ・転退学率4.0%以下(R2 4.5%)。 イ・年間指導件数30件以下(R2 31件)。 ウ・学校教育自己診断「保健室や教育相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる」の肯定的回答60%以上(R2 58%)。 (2) ア・摂津市のボランティア活動に延べ50名以上参加(R2 45名)。 イ・課題意識の共有、意見集約。 (3) ア・計画策定。 イ・生徒に満足度アンケートを実施し、肯定的回答70%以上。 (4) ア・説明会等の実施。学校教育自己診断「進路についての情報を知らせてくれる」について、肯定的回答80%台を維持(R2 82%)。 イ・就職一次合格率80%以上。就職希望者内定率100%(R2 100%)。 ・アドバンスコース会議の定期開催。難関大学合格者数の増加。大学進学希望者決定率100%(R2 98%)。
III 信頼される魅力ある学校づくり	(1) 渉外(生徒募集)活動と入学者の確保 ア 渉外活動の検討・充実  (2) 有意義な学校生活と組織、施設設備の改善 ア 部活動の充実 イ 施設設備の改善  (3) 学科、コースの在り方の見直し ア 新学科、コースの設置検討	(1) ア・塾への広報を継続して改善、強化する。 ・入試広報室を組織的に機能させ、オープンスクール、入試説明会等の内容改善、円滑な運営を図り、生徒、保護者の満足度を高め、受験者数、入学者数の増加につなげる。 ・ホームページのさらなる改善を進めるとともに、校長室だよりの更新頻度を高める。 ・私学展及び入試説明会について、全教職員で取り組めるよう役割分担を行う。 (2) ア・部活動を活性化し、生徒の加入率を向上させ、活気ある高校生活が送れるよう、環境整備や安全対策を強化する。 ・推薦クラブ等の生徒募集活動を強化し、国際科スポーツコースの志願者を増加させる。 イ・未耐震化施設の耐震補強工事及びトイレの改修、WiFi設置工事を実施する。 (3) ア・星翔高校の未来を考えるPT等の議論を通じて、検討を進める。	(1) ア・塾長説明会の出席100塾以上(R2 1回実施71塾)、塾訪問延べ2000以上(R2 1902)。 ・オープンスクール来校者2回合計で350組以上((R2 1回実施149組)。 受験者数900名、入学者数300名(R2 712名、240名)。 ・アクセス数の10%以上増加(R2 38%)、校長室だより週2回更新(R2 週1回)。 ・一人1回以上は、何らかの業務を分担する。 (2) ア・加入率の50%以上(R2 6月42%、2月48%)。 ・国際科スポーツコースの2クラス編成。 イ・工事の完了。 (3) ア・方向性(素案)の決定。	(1) ア・塾長説明会出席54塾(△)。塾訪問延べ2700(○) ・オープンスクール来校2回合計495組(○)、受験者数763名、入学者数255名(△) ・アクセス数(2021/06~2022/02前年同月比)9%増加(△)、校長室だより更新は週1回相当(52回)にとどまる(△) ・業務分担できた(○) (2) ア・加入率6月49%、2月48%(△) ・国際科スポーツコースの入学者数は60名、2クラス編成とした(○) イ・予定された耐震補強工事及びトイレ改修は完了(○)。WiFi設置工事については、R4年度実施予定(△) (3) ア・科・系・コースの名称統一、国際科スポーツコースの在り方の方針確定(○)
IV 校務の効率化と職場環境の改善	(1) 校務の効率化推進 ア 校内組織の再編整備 イ 校務のICT化推進 (2) 職場環境の改善 ア 「働きやすい職場環境づくり」の推進 イ 働き方改革に向けた取組	(1) ア・分掌、委員会等の再編整備の検討を進める。 イ・NASサーバの運用を進めるとともに、校務支援システムの導入を検討する。 (2) ア・労働安全衛生委員会等で議論を深める。 イ・分掌業務・クラブ等の業務効率化を図り、時間外勤務時間削減を進める。	(1) ア・再編整備素案の作成。 イ・校務支援システムの導入準備を整える。 (2) ア・ストレスチェックの「総合的健康リスク」(専任教員)を基準値100に近づける(R2 普通科109、工業科116) イ・時間外勤務月80時間相当以上の教職員数の縮減。	(1) ア・未検討(-) イ・NASサーバの運用開始、校務支援システム導入計画策定完了(○)  (2) ア・「総合的健康リスク」(専任教員)普通教育部、工業教育部ともに108(△) イ・縮減できていない(△)